

学習内容報告書 フォーマット

学校名	岬町立岬中学校
授業者	宮階航太、久保田千瑛、福田佑介

1. 単元計画

実施した活動内容に基づきご記入ください。

1-1. 単元名

海洋実習

1-2. 学年

中学第1学年

1-3. 教科（単元を実施する教科を全てお書きください）

理科、総合的な学習の時間

1-4. 単元の概要

中学校裏に位置する自然海岸や、人工干潟を中心とした自然教育を行う。近年子どもたちが自然と触れ合う機会が少なくなっている中で、教育活動内において自然教育の必要性が高まっている。自分の町に対して関心を持つことや、興味をもつためのきっかけとなるように、自分たちの町について学ぶ機会が必要であった。本単元では、自分たちの町にある自然と触れ合い、その中で得た気付きや疑問をまとめた。また、岬中学校では修学旅行は沖縄に行くことになっており、3年間を通じた学習として環境学習、しいては海洋教育を軸にした環境学習や、人権学習を実施していく。

1-5. 単元設定の理由・ねらい

日本では海岸開発や護岸工事によって自然な姿から変化をさせられてきた海岸が多い。しかし、岬中学校のそばにある長松海岸は残り少ない自然海岸であり、豊かな生態系を知ることができる貴重なものといえる。また、その場所での学習を通して貴重な自然海岸を有する岬町に住んでいるという誇り持つとともに、環境を尊ぶ豊かな心を育むことができると考える。

1-6. 育みたい資質や能力、態度

- ①地域の環境資源に関する知識。
- ②社会に参画する一員として、環境問題について興味関心をもつ。
- ③環境問題と真摯に向き合う態度。

1-7. 単元の展開（全8時間）

時数	学習活動・主な内容	教師の指導 / 主な評価 外部連携 / 使用教材等
1	海について知ることを目的として、海に関する知識を学んだ。海の成り立ちや、海がもたらす恵みなどについて、人類がこれまでどのようなかわりをもって生活を行ってきたかなどを学んだ。また、SDGsと海の関係性についても本時間内に学習した。	・教室にて教科的指導。
2	干潟と自然海岸にスポットライトをあてて、その成り立ちや形成過程について学んだ。特に干潟については、南大阪～和歌山北部にかけて大規模な干潟が海岸付近に点在しており、残していくべき環境であることについて学習した。	教室にて教科的指導。
3	プラスチック問題を中心に、現代に海を取り巻く環境問題について、グループでその現状と課題に関して調べ学習を行った。また、次の時間に実施する海洋生物調査について、岬の海に生息する生き物の種類を調べた。	・SDGsより海の豊かさを守ろう、マイクロプラスチック問題について国連が取り上げた動画の視聴。
4 5	岬中学校裏に位置する長松海岸(大阪府に現存する2つの自然海岸の内の1つ。もう一つの小島海岸も岬町内に存在する)と、深日港内に位置する人工的に残されている干潟の調査を行った。それぞれの環境で生息する生き物を採取し、観察、撮影を行った。また、長松海岸・干潟の両方においてごみの回収も同時進行で行った。	・海洋実習指導。 ・大阪府環境農林水産部水産課、深日漁港組合と連携し、安全に海洋実習を行えるようにした。
6 7 8 9	海洋生物調査の結果を踏まえて、岬町の海について、現状と課題を軸に班ごとにグループ分けを行い、まとめ学習を行った。海岸と干潟に行くことで実際に目の当たりにした現状をまとめることで、海洋問題をより身近な問題として、建設的な話し合いを行った。また、2年後の修学旅行を見据えて、沖縄についても調べ学習を行った。	・購入PCによる種の同定。

2. 学習活動の実際

実施した単元中のキーとなるような時間（導入の時間・主となる活動の時間・まとめの時間など）の学習内容をご記入ください。また、複数の時間についてご記入いただける場合には、この項目をコピーして複数記入していただいて構いません。

2-1. 単元における位置づけ


単元 時間中の 時間目

※例：単元 10 時間中の 2 時間目 / 単元 15 時間中の 4, 5 時間目

2-2. 本時の目標

- ①長松自然海岸と深日港内人工干潟に生息する海洋生物の観察・調査を行うことで、岬町の海を知る。
- ②海岸や干潟に打ち上げられているゴミなどから、海洋問題を身近な問題として認識することができる。
- ③岬町の海を用いて自然体験を行うことで、故郷の海のすばらしさとその現状を知る。

2-3. 本時の展開

主な学習活動（・） / 反応（○）	教師の指導・支援 / 評価の視点（方法）
<ul style="list-style-type: none"> ・学校で集合し、必要な備品をもらう。 ・海岸・干潟における、現地調査の注意事項を理解する。 ・海岸に到着次第、岩礁帯、タイドプール、転石帯を中心に調査。→本時の目標①と合致 <div style="text-align: center;">  <p>(写真は活動当日のもの)</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ○海岸を上から見ただけではわからないことがたくさんある。 ○生きたウニやヤドカリに初めて触れた。 ○水が少し冷たいけど、生き物がたくさんいて楽しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・海岸では岩礁や転石の上は非常に滑りやすくなっているため、転倒には十分気を付けるように指導。 ・海岸・干潟ではゴンズイやウツボなどの危険生物が潜んでいるため、むやみに手を入れて調査しないことを指導。 ・生徒がとった生物をその場で同定する。 →可能な範囲での同定になるが、過去のデータと見比べながら行う。 ・同時に海岸に漂着しているゴミにも注目するように指導。 ・深日港内の人工干潟は転石帯と干潟に大きく分けられており、砂地を好む生物や陸棲傾向の強い生物が生息していることから、水がない場所も調べるように指導。

○思ったよりゴミが多い。プラスチックごみが多くて、マイクロプラスチック問題が身近に感じる。

→本時の目標②と合致

- ・海岸での調査が終わり次第、人工干潟へ移動。
- ・干潟付近の調査と、ゴミの回収を実施。



(写真は活動当日のもの)

- 干潟は海岸よりゴミが多い。
- 海岸で見つけた生き物とは違った生き物がある。
- 陸に近いほうでは、植物が自生している。植物の種類も塩生のものが多い。
- いつも通学で通り過ぎていただけだけど、こんなに楽しい場所だと思わなかった。
- 自分の町に干潟があることがすごい。

- ・すべての活動が終了次第、学校へ戻る。
- ・振り返りを全体で実施。

- 学校の近くに思っていたよりすごい自然があることに驚いた。
- 海洋ゴミの問題が身近にあるんだなと実感した。
- 自分たちの町にも大切にしないといけない自然があるから、これからも守っていききたい。

・干潟の泥の中が黒く変色していることから、干潟としての機能が少しずつ失われてきていることも併せて伝える。

□振り返りの際に、次のまとめへつながるような振り返りをその場で行う。本時の目標を達成することができるか、特に目標の③についてはこの場で評価を行うのではなく、次の時間のまとめで行う。

3. 今回の活動の自己評価

実施学年の変更により扱う内容の変更が出てしまったことが今回の一番の反省点である。活動名が「うちの町と沖縄をつなぐ”海”～オンラインと海で繋がる～」であることから、中学校1年生でできる範囲での実施となってしまった。当初の予定ではオンラインミーティングの形をとって日本自然保護協会で沖縄のサンゴの保護活動を行っている方を招聘し、沖縄とオンラインでつながることを一つのゴールとしていたが、中学校1年生の段階で講師招聘は困難と判断し、調べ学習でのオンライン活用によって沖縄と岬町をつなげることを一つのゴールとした。

また、本活動を1年での活動とするのではなく3年間の積み上げ型の学習とすることで今回の活動のゴールを達成することを立案した。1年生から海洋に慣れ親しむことで2年後の修学旅行の際に、沖縄の環境問題から基地問題へとスムーズに移行することができるように計画した。その第一段階として、今回の活動を位置づけるのであれば十分に評価することができる活動であったと考えられる。

新型コロナウイルスの感染拡大以降外部との連携が失われつつある今、学校での取り組みを漁港組合や大阪府漁港整備グループなどの外部機関と共有することができたことは大きな一歩である。今回の活動で得ることができたつながりを次年度以降にも活かしていく。

4. 今後の課題

今年度は年度途中でカリキュラムマネジメントを進めることで時数を生み出して活動を行ったが、次年度以降は年度当初に活動のための時数を確保しておくことで、より計画性のある活動へとアップデートしていくことも重要であると考えます。また、本活動は今年度だけで終わりではなくあくまで2年後の修学旅行で沖縄を訪れることを形式上のゴールとしており、沖縄の環境問題から基地問題への関心を持たせることができるように教科としてカリキュラムマネジメントを行って、単元活動を行っていく必要がある。

5. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

本活動は3年間の計画の下で実施しており、その1年目の学習内容報告書である。当初の活動予定では1年間の学習と位置付けていたが、実施学年の変更や校内スケジュールの圧迫により活動内容の変更を余儀なくされた。活動名との学習内容に差異が見受けられることがあるが、ロングスパンでの計画であることをここに明記する。

※実施した単元ごとに作成してください。

※写真、画像、図表等の使用可。必要に応じて記入欄やページ数を増やしても構いません。

※基本レイアウト

フォント：MS 明朝、10.5 ポイント / マージン：上下端 20mm、左右端 16mm

※ファイル名は「学習内容報告書_学校名」とし、複数提出する場合は学校名の後に数字を記載してください。

例：学習内容報告書_海洋市立パイオニア小学校 1

※年間指導計画（年間の指導計画における単元の位置づけが分かる資料）があれば別添資料として提出してください。フォーマットの指定はありません。